

近況報告(現状と課題・取り組み)

(1) 施設福祉サービス部

① 特別養護老人ホーム阿品清鈴

現状と課題	取り組み
<p>1. 入院者が多く、入院中に食べる事ができなくなったご利用者については、施設での看取りを希望され、①施設に戻って看取りをさせて頂いた方、②胃瘻などの医療的な処置の継続をご希望され療養型施設に転院される方がおられた。何れも、入院が長期間となり空床の期間も多くあった。</p> <p>2. ご利用者がより安全・安心に過ごして頂くため、ご利用者への言葉がけなど接遇マナーの向上やケアの質を高めるために知識・技術のさらなる向上が課題である。</p>	<p>1. 前もって事前訪問の日時を調整し、ご家族に施設で生活して頂く上での説明を相談係が実施していた。看取りを実施させて頂いたご利用者は、ご家族も同じ部屋に泊まれ、最期を看取られた。 空床については、ショートステイでキャンセル待ちをしておられる方や緊急でご利用される方に、可能な限り調整を行いながら利用して頂いた。</p> <p>2. 会議において、権利擁護の研修や認知症実践者研修修了者が講師になって認知症の研修を行った。</p>

② ケアハウスささえ

現状と課題	取り組み
<p>1. 二人部屋入居者の生活状況に変化あり、夫妻のお一人の特養入所や認知機能低下による介護負担の増大など、個別に支援している。</p> <p>2. 長寿を祝う会、はつかいちふれあい文化祭、クリスマス会、忘年会、新年互礼会などの行事を通じて入居者間の交流を深め、「お互い様」の助け合いの土壌が入居者同士のささえとなっている。</p> <p>3. 一人部屋待機者51名、二人部屋待機者16組あるも満室にて対応できず地域ニーズに応えることができていない。</p>	<p>1. 入居者通信を身元保証人にも郵送し必要に応じて連絡を行い情報交換している。身体的精神的な状態変化による生活の変化がある時は、入居者及び身元保証人と話し合い、どのようなお手伝いがあれば自立した生活が可能か検討して実施している。</p> <p>2. 行事の際にそれぞれの入居者の「役割」と「出番」を意識して取り組み、様々な葛藤が生じ、入居者も職員も勉強になった。</p> <p>3. 入居待機者に対して必要に応じて行事の案内など郵送し、来館いただいた方もあった。</p>

(2) 在宅福祉サービス部

① 短期入所生活介護事業所第2 清鈴園(ショートステイ)

現状と課題	取り組み
-------	------

<ol style="list-style-type: none"> 1. 定期的にご利用いただいているご利用者が入院、入所されるが続いている。 2. インフルエンザの発生で予防の為、ご利用を中止する方もおられた。 3. ケアハウス入居者が生活困難になり、緊急利用された。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 新規利用者の受け入れを積極的に行った。しかし、空いた定期利用の方のベッドをすべて活用できるわけではないので、安定した稼働率が維持できていない。 2. 発生している期間はご利用者やケアマネに周知を行い、ご利用の意向確認を行った。中止となったご利用者は、延べ14名。 3. かねてより生活の困難さがあつた方で、施設サービス部として情報共有が出来ていた。今後の生活をケアマネやケアハウス相談員と相談・調整を行った。
---	---

② デイサービスセンター第2 清鈴園(一般型)

現状と課題	取り組み
<ol style="list-style-type: none"> 1. 運動プログラム(100歳体操)や認知機能活性化プログラム(シナプソロジー、デュアルタスク)などの活動を中心に展開している。よりよい形で活動提供するために必要物品や備品など整備を進めている。 2. 12月から1月にかけて入院者が増えている事で利用受け入れの空きがある。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 運動プログラム(100歳体操)や認知機能活性化プログラム(シナプソロジー、デュアルタスク)をより良い形でご利用者に提供できるよう、職員一同スキルアップに励んでいる。 2. 認知症専用デイサービスと調整を図りながら空き情報、デイサービスのPRを進める。

③ デイサービスセンター第2 清鈴園地御前北2丁目集会所(愛称:お〜い予防教室)

現状と課題	取り組み
<ol style="list-style-type: none"> 1. 午前の部の保険内利用者が減少している。3月に1名新規保険内のご利用者を予定している 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 集会所周辺の民生委員へ情報提供を3月中に行う予定。また同月、斎藤脳外科へ定期報告と情報提供を行う予定としている。

④ デイサービスセンター第2 清鈴園本町集会所(通称:本町デイ)

現状と課題	取り組み
<ol style="list-style-type: none"> 1. 12月頃よりご利用者2名が体調不良などの理由により長期欠席し、その後利用が難しいため取り消しとなった。また、2月に入り1名が骨折。利用が難しく、稼働率が低下している。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 現在、自・他居宅ケアマネージャーに空き情報の提供を行っている。しかし、これまでの利用の流れとしては一般型からの移行がほとんどであるため、一般型のご利用者へのチラシの配布を検討している。 2. 現在、軽度認知症の方を対象としているが、移行に依存している傾向にある。ご利用者(家族)やケアマネから選ばれるデイサービスにしていくため、特色を打ち出すことが優先と考え、現在ニーズなど情報収集を行っている。

⑤ デイサービスセンター第2 清鈴園廿日市一丁目集会所(通称:廿日市デイ)

現状と課題	取り組み
1. 本来予定としている人数(10名)よりも多くご利用者の方の登録を行っている。内訳としては保険内:7 保険外:5。3月から新たに保険内1名の利用を予定している。	1. 集会所周辺の民生委員へ情報提供を3月中に行う予定。また同月、斎藤脳外科へ定期報告と情報提供を行う予定としている。 2. 午後の開催に向け、周辺のサロンなどの状況を把握中。周辺のサロンは運動系の活動が盛んなため、差別化が出来るようにPRを工夫できないか検討中。また、他エリアでの展開についても同時に検討している。

⑥ 認知症専用デイサービスセンター第2 清鈴園(愛称:ここの音)

現状と課題	取り組み
1. 新規のご利用者は、増えているが介護量の増加により入所される方やご逝去される方がおられ、稼働率は伸び悩んでいる。また、個別対応を必要とされる方が増え、新規利用に影響する場合がある。	1. 個別対応が必要なご利用者に対しては、職員間で役割を決め、協力しながら丁寧に対応している。 稼働率の伸び悩みに関しては、時間が許す限り訪問し、PRを行っている。また、阿品台市民センター等にパンフレットを置かせて頂き、地域の方へ認識を深めて頂ける様に努めている。

⑦ 訪問介護事業所第2 清鈴園

現状と課題	取り組み
1. 職員の質にばらつきがある。均一した質の高いサービスの提供をしていく必要がある。	1. 資質向上のため、同行訪問の実施を行った。報・連・送の徹底を図り、職員間のコミュニケーションを図ることに努めた。研修内容を見直し、会議の参加率の向上を図っている。

⑧ 居宅介護支援事業所第2 清鈴園

現状と課題	取り組み
1. 急変や緊急対応をするケースが増えた。 2. 入所・入院・ご逝去などが重なり、新規ケースの依頼はあるも、ケース増につながりにくい現状がある。	1. 複数のケアマネージャーがいる強みを生かし、担当ケアマネージャー以外のケアマネージャーも一緒に対応を行っている。 2. 新規ケースの依頼は迅速に対応を行う。地域包括支援センターとの連携を図る。法令遵守に基づき、ご本人、ご家族の信頼を得るよう努める。

① 廿日市市配食サービス

現状と課題	取り組み
1. ボランティアの高齢化と減少。 2. 配食数の減少。	1.2. 配食サービス連絡会で現状について話し合いを行った。現在、民間業者なども多くあり、食事の確保のしやすい状況になっているため、今年度末で配食サービスを終了することとなった。包括支援センターが中心となり、ご利用者の今後の食の確保に努めた。

② 認知症高齢者家族やすらぎ支援事業

現状と課題	取り組み
1. 訪問件数が増えているが、訪問可能な支援員が不足しており、新たなケースや、現状の支援員が訪問出来なくなったときに交代出来る支援員がいない。	1. 必要時には隔週訪問にするなど少しでも訪問に繋がられるようにする。来年度の基礎研修修了者を1回あたり定員いっぱい10名になるようにPRに力を入れる。

③ 出張介護教室・出前コグニサイズ

現状と課題	取り組み
(出張介護教室) 1. 12月に恒例の串戸市民センターと田屋集会所で介護予防教室を開催。	(出張介護教室) 1. 引き続き、阿品、阿品台地区のサロンを中心に参加させていただくとともに、先方のニーズに応じた内容を立案、提案していく。
(出前コグニサイズ) 1. 1月に大野4区ふれあいサロンで開催。	(出前コグニサイズ) 1. 依頼に基づく開催を継続する。

④ その他

現状と課題	取り組み
(人材育成) 1. 清鈴園・廿日市高齢者ケアセンター研修システムによる階層別研修を計画通り開催。 2. 来年度より中堅1(経験年数3年未満)階層の研修カリキュラムの見直しに着手	(人材育成) 1. 左記を計画的に開催した。 2. ご利用者の尊厳や価値感、職員個人の価値観の理解等に重点を置いたカリキュラムへ見直し、来年度より取り入れることとした。
(やすらぎ支援員養成基礎研修) 1. 研修会場を初めて大野市民センターにしたが、修了者は4名だった。	(やすらぎ支援員養成基礎研修) 1. 会場を変更しても受講者は増えなかったため、来年度は2回とも会場をあいプラザにし、募集要項を1000部印刷し、担当課とも相談しながら必要箇所に配付して受講者増に繋げる。

(廿日市市介護予防・生活支援員養成研修)

1. 第2回の修了者が16名だった。

(介護のお仕事「きっかけ講座」)

1. 第2回の受講者が3名だった。

(廿日市市介護人材確保研修修了者コーディネート事業)

1. 2月2日に介護のお仕事「きっかけ研修」を開催(場所:あいプラザ)
2. 廿日市市の生活支援員の募集事業所及び高齢者介護事業の求人情報をケアセンターのホームページに継続掲載。

(ハーモニーOBG活動支援)

1. 職場体験
 - ◇ 10月にメンバー、ご家族、社協職員と意見交換をした。
2. 鍋奉行活動支援
 - ◇ 10月に喫茶ぽっぽで職員のランチ提供をしていただいた。
 - ◇ メンバー、ご家族の都合で、さろん阿品での調理活動は、今年度は休止。

(カフェなかま)

1. 木曜日に喫茶ポッポを住民活動グループへお貸しして、500円程度のランチを提供している。

(廿日市市介護予防・生活支援員養成研修)

1. 修了者が生活支援員として就労に繋がっているかは不明で、年1回の就労状況などの調査票を年度明けに送付する。

(介護のお仕事「きっかけ講座」)

1. 1名は就労ではなくボランティアに興味があるとのことで、やすらぎ支援員養成基礎研修を修了された。

(廿日市市介護人材確保研修修了者コーディネート事業)

1. 廿日市市介護人材確保研修修了者及び、一般市民を対象者に、介護の仕事・研修に繋げるきっかけの機会として開催した。参加者は14名。
2. 2019年6月より継続掲載している。参加事業所からの求人情報の更新依頼がないため、最新の情報になっているかの確認が必要。

(ハーモニーOBG活動支援)

1. 職場体験
 - ◇ メンバーのニーズも変わってきているので、今後はメンバーのやりたいことと施設のお願いしたいことがマッチしたときにボランティア活動をするということになった。
2. 鍋奉行活動支援
 - ◇ 引き続き、社会福祉協議会のホームページや活動報告紙で活動をPRし、集う紹介やボランティア確保に繋げる。

(カフェなかま)

1. 月2回程度実施し10名から15名程度の利用があり好評を得ている。